

腰痛の徒手検査法

置賜支部 加藤 精一

【はじめに】

当院を訪れる患者で最も多い疾患は、腰痛を訴えてくる患者です。

腰痛の原因は、単純な筋膜性の痛みから重篤な内蔵疾患や腫瘍、心因性に由来するもの、加齢から痛みを訴えるもの等様々であるが、柔整師の日常診療において安易に処置されていないだろうか。

私は各種徒手検査法を用いて腰痛の原因を確定しその治療法に役立てているので今回発表します。

腰痛の診断として、単純X線撮影やMRI等による画像診断が全盛の今日ですが必ずしも患者が訴える症状と画像診断が一致するとは限らない。MRI診断画像で椎間板ヘルニアと診断されながら腰痛や神経症状を訴えない患者が76%もあったという統計もあります。これは加齢から来ることが考えられます。しかし若年層では、患者の訴えと画像診断がほぼ一致するとみられています。

われわれ柔整師を訪れる患者は必ず痛みを訴えて来る患者であります。画像診断する前の臨床症状から原因を判断する必要があります。患者の訴えをよく聞きながら各種テスト法でその原因を判断し正しい治療を心がけなければなりません。

【徒手検査法】

背臥位での診察 検査の種類と目的

(1)下肢挙上テスト(SLR) : 座骨神経とその硬膜を末梢側に伸長し、L4-5・L5-S1の神経根の刺激を検査する

(2)クラムテスト : 痛みや神経学的症状が神経根の刺激によるものかを確証する

(3)ウェルレグレイズテスト:健側の下肢を挙上して、痛みや神経学的症状が神経根圧迫によるものかを判定する

(1)~(3) 検査方法 検査結果の評価

腹臥位での診察

検査の種類と目的

(1)ヨーマン股関節伸展テスト:前仙腸関節靭帯の病理又は損傷を検査する

(2)ヒブテスト : 仙腸関節に外法ヘストレスをかけ仙腸関節の病理又は機能低下を検査する

(1)(2) 検査方法 検査結果の評価